

会 議 録

会議名	平成 28 年度第 1 回東浦町社会教育委員会	
開催日時	平成 28 年 5 月 26 日（木） 午前 10 時から午後 0 時 05 分まで	
開催場所	東浦町文化センター 2 階視聴覚室	
出席者	委員	石原弘幸氏、鈴木万里子氏、松下玲子氏、天野圭二氏、 中村建志郎氏、平井伸幸氏、杉浦義治氏、竹内正樹氏、 二宮邦子氏、水野智美氏、宇井弘文氏
	事務局	教育長、教育部長、生涯学習課長、中央図書館長、 スポーツ課長、生涯学習課長補佐、文化財係長、 生涯学習指導員
欠席者	久米 弘氏	
議題	1 平成 27 年度社会教育事業実績について 2 平成 28 年度社会教育事業計画について 3 その他	
傍聴者の数	なし	
審議内容	<p>◆生涯学習課長 委嘱書配付。 異動者を紹介の後、委員から事務局の順で自己紹介をしていただく。 次第に従い会を進める。 教育長より挨拶をいただく。</p> <p>◆教育長 （あいさつ）</p> <p>◆生涯学習課長 平成 28・29 年度東浦町社会教育委員会正副委員長の選出を行う。 委員長に石原氏、副委員長に鈴木氏を推薦。異議なし。 委員長より挨拶をいただく。</p> <p>◇委員長 （あいさつ） 以降は委員長が議事を取回す。</p> <p>◇委員長 次第に従い議事を進める。次第の 1 「平成 27 年度社会教育事業実績について」を議題とし、事務局から説明を求める。</p> <p>◆事務局</p>	

生涯学習課、図書館、スポーツ課の順で、配付資料に基づき各課の27年度活動実績を説明。

◇委員長

事務局の説明を受けて、委員の意見を募る。

◇委員

小川村のキャンプについて、実施した後の子どもたちの感想はどのようなものがみられるか。

◆事務局

ここでは、小川村での子どもたちの姿をお伝えしたい。初日は、地元の方に、地崩れ防止と排水路の整備がされている沢を案内してもらった。日頃、目にすることのない施設を目にして、子どもたちは興味深そうに眺めていた。2日目は、小川村の子どもたちと一緒にそば打ち体験をし、交流を深めた。その時の感想発表は楽しいという内容で、満足感が感じられた。キャンプ生活や野外での食事作りにも関心を示し、進んで取り組んでいた。

◇委員

準備から実施まで非常に労力が多かったと思うが、子どもたちの意欲的な姿を見ることができてよかったと思う。

◇委員

小川村とは、どの辺りなのか。

◆事務局

長野県白馬村の近くにある。東浦から車で5時間ぐらいかかる。水野氏の先祖が住んだところと言われ、交流が始まった。キャンプは、昨年で2回目、資料館はそれ以前から付き合いがあった。

◇委員

新田地区の高齢者教育事業に参加した。「東浦見て歩く記」は、特に印象に残った。毎回工夫されていて、参加者も多い。社会見学も勉強になる。ぜひ継続してほしい。

◆事務局

高齢者教育事業については、25年の事業仕分けで「廃止」の提案を受けたので、形を変えて続けている。今年度も予算をとっている。地元で開催することで、参加しやすい環境をつくりながら進めていきたい。

◇委員長

次第の2「平成28年度社会教育事業計画について」を議題とし、事務局から説明を求める。

◆事務局

生涯学習課、図書館、スポーツ課の順で、配付資料に基づき各課の28年度活動計画を説明。

◇委員長

事務局の説明を受けて、委員の意見を募る。

◇委員

図書館の27年度事業実績と28年度の事業計画を見た。16～18歳の利用者がかなり少ない。対策について、28年度の事業計画にあまり触れられていないが、何らかの考えはあるか。

◆事務局

16～18歳というのは、図書館の用語でいうと、「ヤングアダルト」世代に当てはまり、図書館の利用が少ないということは前々から言われている。来年度以降になるが、「ティーンズコーナー」をつくらうという構想がある。実際には、貸し出し数は少ないが、図書館に来ている子は多い。勉強をするために来ている子がほとんどである。試験前になると、中学生、高校生でいっぱいになってしまい、一般の方が座る席がなくなってしまうのではないかと心配するぐらいである。ティーンズコーナーをつかって、その子たちの目に留まるような活動をしていきたい。

◇委員

三つお願いしたい。

- ①高齢者教育事業は、対象が老人クラブ連合会会員になっている。会員ということは老人会に入っていないとお誘いが無いということである。高齢者が増えている現状にもかかわらず、対象を絞ってしまってよいのか。65歳以上の方を対象とした形にした方がよいのではないか。
- ②人権教育事業については、事業実績・計画書に研修会への参加のみが上げられている。実際には、教育委員会・学校を通して、人権作文や習字、ポスター、標語などの作品募集を行い、人権啓発をしている。社会教育に位置付けていただくと、活動もしやすいし、連携もとりやすい。
- ③図書館の居場所づくり事業について、社会福祉協議会と連携して進めていくということがすばらしい。月2回の相談事業というのは、引きこもりの方への相談なのか、保護者への相談なのか、説明していただきたい。

◆事務局

高齢者教育事業は、東浦町老人クラブ連合会に委託しているが、会員のみならず、60歳以上の人であれば、だれでも参加できるという条件で委託している。対象が「東浦町老人クラブ連合会会員」となっているのは誤記載なので、「60歳以上の高齢者（町内在住）」に訂正をしていただきたい。

◇委員

対象者への情報提供は、現状では、各地区の老人クラブからパンフレットが回ってくるので、老人クラブ会員だけかと思っていた。60歳以上が対象というのであれば、広報などで知らせないと分からない。今後の課題として取り組んでほしい。

◆事務局

回覧板で出していると思うけれども、確認させていただきたい。

◇委員長

二つ目の人権教育のことについては、要望ということでよいか。

◇委員

要望でよい。一度検討していただけるとありがたい。

◆事務局

居場所づくり事業について、図書館が取り組むのはこの4月からである。しかし、社会福祉協議会は福祉センターで昨年から取り組んできている。相談事業は、本人がその場所へ来て相談することはほとんどないようだ。親や家族の人が来て相談しているということを聞いた。本人が来てくれればそれに越したことはないが、まずは親や家族の人が相談に来ていただければよいと考えている。

◇委員

青少年地域活動事業のジュニアリーダーの参加者が減少しているのが気になる。今年度、現在までの登録状況はどのようになっているか。

◆事務局

今年度は20名の参加である。人数が減っている一つの要因としては、指導者の確保がたいへん難しいということがある。指導者を2名確保しているが、それに対応できる子どもの数は35名までとして募集している。また、中学生までを対象としているが、実際に応募してくるのは小学生のみである。中学生は、部活動や学校行事の関係で参加しづらいようだ。なお、平成27年度事業実績

	<p>の4ページの人数の計上について、24年度までは累計で上げてある。25年度からは実数になっているので、数字が急に下がっているように見える。</p> <p>◇委員 イオンモールの行政サービスコーナー横のホールで、子育て支援事業にかかるパンフレットをもらってきた。なかを見て、東浦町はこんなにも子育てにかかわることをやっているを知り、感心した。もっともっとPRするように進めていてもらいたい。 また、文化センターのホールでいろいろな催しが行われている。利用者の方から音響が悪いと聞くが、何とかならないものか。</p> <p>◆事務局 音響については、昨年スピーカーを更新した。音響設備本体やホール自体の音の跳ね返りについての改修計画は、今のところない。しかし、みなさんの声を聞きながら、必要であれば計画に上げていきたい。</p> <p>◇委員 二つお願いしたい。 ①ジュニアリーダーの活動の中で、社会貢献的なものとして募金活動が上げてあるが、社会貢献をするような場面がもっとあった方がよいのではないか。リーダーたちが社会貢献活動に取り組む素晴らしい姿を年下の子どもたちに見せてやりたい。リーダーとしての自尊心を育むためにも社会貢献的なことをもっとやれるとよい。 ②図書館の居場所づくり事業について、居場所を図書館につくるのはよいことだと思う。ハードルが低くなって、引きこもりの人や家族が相談に出かけやすくなる。</p> <p>◇委員長 次第3「その他」について案件がないことを確認し、議事の終了を宣告。</p> <p>◆事務局 次回の委員会について連絡。次回は、10月に予定。日時は後日連絡。</p>
備考	なし